

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和 5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立成和小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度もコロナ禍にあり、様々な教育活動の実践に影響がある一年であった。今年度は、コロナ禍以前の教育活動に戻ることが予想されるため、昨年度の課題をもとに、具体的取組や成果指標を設定し、教育活動の展開を図る。 ・「学力の向上」に関しては、これまで以上に「主体的、対話的で深い学び」の視点に立った授業改善と指導方法の工夫に取り組んでいく。 ・「不登校対策」に関しては、不登校傾向の児童は増加の傾向にあり、引き続き重点目標として「不登校を生まない学校づくり」に取り組んでいく。早期発見・組織的な対応について一層の取組強化を図る。

2 学校教育目標	<p>【学校教育目標】「ハート」「パワー」「チャレンジ」 あたたかく、力強く、目標にチャレンジする 成和っ子の育成</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>【本年度の最重点内容】 (1) 確かな学力の定着 (2) 学級経営の充実 (3) 豊かな心の育成 (4) 生徒指導の充実 (5) 不登校・いじめ・問題行動等への指導 (6) 教育相談・特別支援教育の充実 (7) 健康・安全教育の充実 (8) 開かれた学校づくり</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	評価項目	取組内容		成果指標(数値目標)	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○校内研究で進める「思考力を高める指導の工夫」の授業実践	○「かく」ことに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童85%以上	・授業では、自分の気持ちや考えを適切に書き表したり、文法を意識して正しく書いたりできるように継続指導をする。 ・書いた文章を多くの人に伝える楽しさを味わわせる。 ・貸し出し冊数1人100冊を目指し、図書館教育に力を入れる。	A	・学年に合った工夫した作文指導等に取り組む「かく」ことへの児童の関心が向上した。 ・児童のアンケート結果から、「自分の考えや気持ちを言葉や文章でかくことができた」と回答した児童の割合が90%だった。 ・年2回図書祭を開催し、図書室の本の貸し出し冊数100冊に達した児童の割合80%を超えた。	A	・自分の考えを文章にできるのは素晴らしいと思う。 ・読書100冊の取組でIN-PUTがしっかりできている。これからは、学んだことをOUT-PUTすることが大切になってくる。	○学習研究部 ・学力向上コーディネーター ・研究主任	
		●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳授業の充実に努め、「他者を思いやることができる」と回答した児童80%以上	・児童が人それぞれの立場に立って考える活動を適宜取り入れる。 ・授業において、交流や対話の活動を取り入れ、児童同士で意見を認め合う場面をつくる。	A	・道徳に関するアンケートにおいて、「しっかり考えて学習している」と回答をした児童が96.3%だった。 ・2月に、外部講師を招いての人権集会を実施した。 ・道徳や人権同和教育の授業づくりに関する研修会を2回実施し、教員間の共通理解を図った。	A	・適切に行われている。	○特活部 ・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当
●心の教育	○登校に不安を感じる児童・不登校児童への組織的対応の充実	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等について組織的な対応ができている」と回答した教師85%以上	・心のアンケートを5、9、10(11)、1、2月に実施し、児童の実態を把握する。 ・管理職や教務主任、生徒指導主任、担任でチームを作り、組織的対応を行う。	A	・「いじめ防止等について組織的な対応ができている」と回答した教師が100パーセントだった。 ・「いじめのない通いやすい学校だと思わない児童」が前年度3%から15%、「いじめのない通いやすい学校だと思わない保護者」が前年度2%から15%だった。今後も児童の見守りや保護者との連携に組織的に取り組んでいく。	A	・今後も継続して取り組んでいきたい。	○生活部 ・教頭
		●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよところを認めてくれて」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・一人ひとりに役割や出番を与えられるようなたてわり班活動や集会活動の工夫と、達成感を感じられるような教師の声かけを行う。 ・キャリアパスポート等を活用し、様々な活動の目標設定や振り返りを行う。 ・各学年に応じたキャリア教育を行う。	B	・様々な理由で登校に気持ちが向かない児童がいる。個人の様子を見ながら組織として情報交換に努め、対応を進めている。保護者との連携にも配慮し、継続的な対応を心がけていく必要がある。 ・気持ちが不安定な児童には生活支援員が寄り添い、安心して学校で過ごせるように努めた。	B	・児童にあたたかい声掛けをお願いします。 ・社会体育等の校外活動への参加が登校のきっかけになることもあると思います。 ・不登校となる原因はいろいろなことが複雑に絡んでいて、なかなか難しい。保護者への広報も必要である。	○生活部 ・教頭
		○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	●「先生はあなたのよところを認めてくれて」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・一人ひとりに役割や出番を与えられるようなたてわり班活動や集会活動の工夫と、達成感を感じられるような教師の声かけを行う。 ・キャリアパスポート等を活用し、様々な活動の目標設定や振り返りを行う。 ・各学年に応じたキャリア教育を行う。	B	・「先生は、あなたのよところを認めてくれて」と肯定的に回答した児童の割合が91.4%だった。 ・「児童一人ひとりのよところを認め、励ましたり褒めたりする取組を行っている」と自己申告する教師の割合が100%だった。教師の取組が児童に十分に伝わった結果だと考えられる。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童81.2%だった。学校外のつながりや活動を2回以上は取り入れたが、児童が実感としてとらえられていないので、来年度は児童自ら目標を立てて主体的に取り組めるような活動の充実を図る必要がある。 ・振り返りで肯定的な感想を残し、新たな活動への意欲を示す児童が増加した。	A	・児童のよところを自覚させることが必要。 ・保護者と家庭での生活をよく聞くことが大事。 ・先生がよく努力されていると思う。 ・クラス別、学年別、全校などいろいろな取組がされていると思う。GTO集会もおもしろい取組だと思う。	○特活部 ・教務主任
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間(登下校を含む)で420分以上の児童60%以上	・外遊びの奨励と環境づくりを推進する。 ・縄跳び大会等に向け、活動する時間を確保し、取り組ませる。 ・体育委員会を中心にスポーツチャレンジの取組を行い、体力向上に努める。	B	・高学年にアンケートをとったところ、1週間で420分以上外で運動を行う児童は50%で目標の60%には届かなかった。 ・走ろう週間やスポーツチャレンジ等の、外遊びを行う時間を確保することができたので、授業外でも運動する習慣を増やすために継続していきたい。	B	・家での運動量は少ない。外遊び道具の充実も必要となってくる。 ・地域には公園・広場などが近くにない。 ・古くなっていたり、傷んだりしている学校施設が気になる。地域の体協や社会福祉協議会から援助してもらえるものがあるのではないだろうか。	・体育部	
		○朝食をほとんど毎日とって登校する児童95%以上	・全校朝会で話をしたり、給食時間に放送をしたりして、児童の朝食への関心を高める指導を行う。 ・栄養教諭が学級で食に関する指導を行う。 ・懇談会や個人懇談で保護者に直接説明し、啓発を図る。 ・給食日より月に一回発行し、保護者への啓発を図る。	A	・食育についてのおたよりを発行した。全学年で食育の改善を行い、家庭と連携した取組では、ほとんどの児童が毎日朝食を食べることができた。来年度も朝食摂取率向上を目指して、家庭と連携し継続して取り組む必要がある。	A	・うずらの卵等喉に詰まらせる恐れのあるものは、よく噛んで気をつけて食べるよう指導が必要。 ・適切であると思う。	・体育部	
		○児童生徒の交通事故・犯罪被害を0(ゼロ)にする。	・地域の方と協力しながら、朝の交通指導を行う。 ・年度初めに、交通安全指導・自転車の乗り方の指導を行う。 ・低学年は集団下校を行う。学年間で下校時刻をそろえて下校させる。 ・防犯意識を高めるために、安全集会を行う。	B	・児童生徒の交通事故ゼロは達成できなかった。今後も学校の危険箇所や自転車の乗り方を児童と確認し、再発防止に努めていく。 ・アンケートの結果、「道路での歩き方、自転車の乗り方に気を付けている児童」が95.9%、「交通安全」は96.0%だった。 ・安全集会を行い、自分の命は自分で守る意識を高めることができた。	B	・低学年の児童の自転車運転は非常に危険。どれくらい安全に乗ることが出来るのか実態を把握し、適切な指導が大事である。 ・大人がよい手本を示さなくてはならない。 ・地域で帰りの見守りを考えたい。 ・地域や警察との連携を進めてもらいたい。	・生活部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・時間外勤務時間一月45時間未満	・職員作業等役割分担を明確にし、業務を効率よく進める。 ・定時退勤日を設定する。 ・掲示物や声かけ等により意識を高め、時間外勤務時間一月45時間未満を目指す。	B	・時間外勤務時間が45時間を超えない職員が、12月、1月は18人に増加した。「働き方改革」に関するアンケートで、肯定的な回答をした職員は55%で、「働き方を変えている」「児童と向き合う時間を増やせるように努めている」という意識の高まりまでは見られなかった。45時間以内を守る職員が増えてきているが、働き方の改善を実感するまでには至っていない。	B	・先生方も家庭を大事にしてください。 ・AIの導入により業務の効率化を図るとよい。	・教頭	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実	○月に1回以上は特別支援委員会等を開催し、教員間で情報共有を行い、特別支援教育の充実に努める。	・児童が安定した学校生活を送れるように、担任や生活支援員との情報共有を行い、児童や保護者の願いに寄り添った指導ができるようにする。	A	・上期に引き続き、下期も月1回程度、特別支援委員会やケース会議を実施した。支援が必要な児童が、担任や養護教諭、生活支援員などからの支援を受けながら、安心して学校生活を過ごせることが増えた。	A	・適切である。 ・今後、保護者や地域への啓発が進むとよい。	・特別支援教育コーディネーター	
○開かれた学校づくり	○家庭や地域との連携	○情報発信に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者85% ○ゲストティーチャーを招き、児童の体験活動の充実に努める。	・はなまる連絡帳等各種通信やホームページの更新を月2回以上行い、家庭や地域へ保護者目線の情報発信を行う。 ・学校だよりを月1回発行する。 ・地域の方々と連携した体験活動を行う。活動記録を保存し、次年度に引き継ぐ。	A	・はなまる連絡帳を使って、必要な情報を配信することが継続できてきた。学校アンケートでいただいた意見を反映し、感染予防のため、感染状況等必要な情報を対象学年のみならず、全校の保護者へ向けて配信するようにした。 ・体験活動記録、人材バンクの年度内完成の見直しは立った。来年度から活用し、見直しを行いながらより良いものにしていく。	A	・学校の様子がよくわかる。	・管理職	
5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力向上」については、校内研究を中心に「楽しくかく」段階から2年目の「わかる段階」へ移行し、思考力を育成する指導方法の工夫を進めていく。 ・「キャリア教育」については、児童が夢や目標をもつことができるよう学校行事、体験活動等の充実を図り、主体的に取り組む児童の育成を目指す。 ・「安全教育」については、地域と連携を図り、安全教育の充実を図る。交通安全指導や不審者対応、児童引き渡し訓練等を計画的に行い、安全に関する資質・能力を育成していく。 ・「不登校対策」については、引き続き「不登校を生まない学校づくり・学級づくり」に取り組んでいく。保護者とのつながりを深め、組織的な対応を行っていき、外部機関との連携も充実させる。 								